

## 平成 21 年度市民提案型協働推進事業

### 省エネ学習講座「チャレンジ！！エネルギーダイエット」

日時：平成 21 年 11 月 9 日（日） 13：30～15：45

場所：茅ヶ崎市分庁舎 6 F コミュニティーホール

基調講演：省エネルギーセンター 野尻雅人氏

#### 配布資料

- 1 省エネ学習講座 プログラム
- 2 茅ヶ崎市省エネルギービジョン概要版
- 3 茅ヶ崎市 環境家計簿
- 4 東京電力「でんこちゃんのなるほど省エネ！なっとくBOOK」
- 5 基調講演 パワーポイント資料
- 6 省エネゲーム資料
- 7 エネルギー先進都市茅ヶ崎を実現するための提案 概要版
- 8 さぼせんニューズレター（2009年夏号）
- 9 グリーン電力基金パンフレット
- 10 グリーン電力基金通信
- 11 資源エネルギー庁「わかる新エネ」わたしたちの未来のために
- 12 資源エネルギー庁「使おう！広げよう！グリーン電力」
- 13 講演会ちらし「茅ヶ崎版グリーンニューディールのすすめ」
- 14 アンケート

基調講演は地域での省エネ活動支援、人材研修などを行っている省エネルギーセンターの紹介のあと、省エネの意義・背景と省エネの具体的な方法についてわかりやすく話していただきました。

省エネゲーム説明の後の質疑応答では、自ら実践していらっしゃる参加者からの省エネアイデアの紹介などもあり、活発な意見交換の場となりました。

以下の「基調講演の要旨」と「質疑応答」は、当日の録音・資料を元に講演と質疑の概要を「ちがさき自然エネルギーネットワーク」によってまとめたものです。録音の技術的問題から聴取困難な部分もあり、発言の一部を省略した部分もあります。表現はすべて「である」調に統一いたしました。

#### 基調講演の要旨

##### I 地球温暖化問題と省エネルギー

日本の場合二酸化炭素のほとんどがエネルギー起源で、省エネが「安定供給」というエネルギー問題と地球環境問題の一体的解決に決定的に重要である。

地球温暖化問題への対応について IPCC 第 4 次報告では温暖化の主要な原因の二酸化炭素のほとんどが人為起源としている。

京都議定書での削減対象は世界の 3 割に過ぎず、さらに途上国排出量急増で比率が低下することが予想される。

今後、ポスト京都に向けた国際交渉があり、日本では 2020 年までに 25%削減という高い目標を掲げている。

##### II 家庭の省エネルギー

- 1 民生部門消費は 1973 年比で 2.5 倍になっており、その中で家庭のエネルギー消費が大きい。なかでも給湯、暖房が大きく、2007 年には動力照明が増大し最も大きくなった。家電製品別では空調・冷蔵庫が大きい。

待機時消費電力は 7.3%でガス給湯コントロール、ビデオデッキ等で発生し削減可能である。

- 2 家庭で省エネルギーを進めるには

夏の軽装、冬の重ね着、生産・輸送のエネルギーの少ない食料を選ぶなど、衣食住で省エネ生活を実践することが大事である。

また省エネ性能が高い機器を選ぶこと、住宅の省エネ性能を高めることも重要である。

##### III 交通の省エネルギー

- 1 運輸部門のエネルギー消費の現状と推移

運輸部門からの排出量が全体の約 2 割を占めており、運輸部門の 6 割が旅客部門で貨物部門の伸びを上回って推移している。なかでも自家用自動車からの排出量をいかに減らすかが、非常に重要な課題となっている。

- 2 交通の省エネルギーのポイント

公共交通機関の利用、自動車の省エネ運転、燃費のよい自動車の選択により多くの省エネが可能となる。

#### IV エネルギー消費の可視化

電気のシェイプアップカルテ、省エネナビ等の活用によってエネルギー消費を可視化することで現状と目標を把握することが出来るようになる。可視化によって自発的な省エネルギー行動に結び付けることができる。

#### V 省エネ行動を継続するためのステップ

省エネ行動を継続するためのステップは次のように整理できる。

- ① 省エネナビの設置：エネルギー消費を見て、ムダを省く意欲を持つ。
- ② 省エネルギー行動が起きる：省エネルギー行動のきっかけとなる。
- ③ 省エネルギー行動の実践（習慣化）：具体的な省エネルギー行動が習慣となる。
- ④ 省エネについてもっと知りたい：省エネ実践者の交流・情報収集により省エネルギー行動が広がる。
- ⑤ 省エネ知識と行動の融合：冷暖房時間の短縮や「夜型から朝型へ」など生活スタイルが変化する。
- ⑥ 省エネ行動を無理なく続ける：家族の理解と協力などで継続する。

#### VI 家庭の省エネ事例集

「PDCA サイクルと環境家計簿の活用」で電気 18.7% 灯油 36.5% など大きな削減効果があった。

(平成 20 年度省エネコンテスト経済産業大臣賞受賞事例)

### 基調講演質疑応答

1 IPCC 報告で地球温暖化が活動によって進んでいるのは間違いないとのこと。CO<sub>2</sub>の上昇と平均気温がグラフで上昇していることが一致しているからか、何故そういえるのか、もっとくわしく説明してほしい。

回答：人為影響が大きいとしている。自然要因の論文も含め検討して結論を出したものの。経過の詳細は把握していない。

2 私はこのままの生活では、人類含む生物が 100 年後(?)に滅亡してしまうと思っているが、どう思うか?

回答：生命は生き残るのではないか。人類の弱い所に影響が出ると思う。人類全体として対策が重要。

3 メタンハイドレードの話がなかったが、地球の温度が上がると、発生がとめられないと思う。またシベリア等の森林の伐採をすると凍土が解けて、土になると熱を吸収しやすくなって温度が上昇する。誰が止められるのか?

回答：溶け出すと止められない。

4 「省エネルギーセンター」とは国にどの程度影響ある発言が出来るのか教えてほしい。国は弱すぎる。人類は滅亡するのに!

回答：「省エネルギーセンター」は省エネルギーの普及を図るところである。効果ある対策は政策に反映させている。

5 エネルギー管理士不足に対する対策は?(H20 省エネルギー法改正)

回答：講習等でエネルギー管理員の育成をしている。

6 今回講座資料の電子データは提供してもらえるのか?

回答：提供する。著作権に注意して使用していただきたい。事務局から送付する。

7 民生部門のオフィス向け省エネ啓発資料は提供してもらえるのか?

回答：「省エネルギーセンター」のサイトからダウンロード可能である。

8 家庭用燃料電池の実用性と普及の現状は?

回答：エネファームが市場投入されている。価格高く、補助は必要な現状である。総合効率を上げるためには電気だけではなく、熱利用もある程度必要である。普及のハードルは高い。

9 省エネルギーのアイデアをお伝えしたい。

- (1) 冷蔵庫に、温度遮蔽幕取り付けると省エネ効果大きい。
- (2) 自動車は 5 秒以上停止する場合、エンジンを停止したほうがいい。
- (3) 夏のすだれは省エネ効果大きい。

補足：アイドリングストップについては、いろんな場合がある。

しないほうがいい場合は信号待ちの先頭車である場合と坂道走行中の場合である。

夏のすだれは、屋外側に設置をするほうが効果的である。

(文責：ちがさき自然エネルギーネットワーク)